



わたなべ ただよし
渡邊 忠義 議員

水利保全・ため池管理

今後の整備の取組は？

町長／補助事業を含め検討

渡邊：南山地区の基盤整備について、落石の懸念、土砂崩れによる水路の詰まりなどで、用水路管理作業に支障をきたしており、水田に引く水量が少なくなっている状況のとことでした。

水利組合が町に要望書の提出などを行って、も回答が無いとのことですが、町民から要望や電話などで相談があった場合、職員にどのような指導を行っているのか伺います。

町長：町民から要望や相談があった場合は、適切に対応するよう課長を通じて指導し、課ごとあるいは階層別に職員と懇談を行い、より良い職務バランス体制の構築に努めています。

渡邊：福島再生加速化交付金に伴う農業水利保全管理と農業用ため池管理の整備事業等に取り組む意思があるのか伺います。

町長：福島再生加速化事業は営農再開を目的としていることから活用は困難な状況となっています。

現在、各水利組合へ交付している日本型直接支払推進交付金を活用して水路・ため池の軽微な補修を行うことが可能です。

今回の水路・ため池については、事業規模にもよりますが、補助事業の活用及び受益者の負担も含め検討してまいります。

地域おこし協力隊

主体的な活動時間の確保は？

町長／活動計画を柔軟に対応

渡邊：令和7年度から地域おこし協力隊を採用し、隊員は1年から3年の間、様々な活動を行い、任期終了後の定住・生業づくりに向けた生活基盤の構築を行うとのことですが、隊員が主体的に活動を進めるための時間をどのように確保するのか伺います。

町長：「広報ひろの」や町ホームページ、ソーシャルメディアなど複数の媒体を通じて、隊員の活動内容等の情報発信を行ってまいります。

町長：隊員の活動実績やヒアリング等を踏まえ、活動計画を柔軟に対応し、隊員自身が円滑に地域に根ざした活動が行えるよう努めます。

町長：担当部署において定期的な情報交換を行い、広野町移住定住ポータルサイト「HIRONOSTYLE」（ヒロノスタイル）などを通じて、卒業生が関わる地域活動や事業の情報を収集し、町内外へ情報発信を行っています。

渡邊：町では、地域おこし協力隊を卒業された方のその後の活動についてどのように把握しているのか伺います。

町長3期目

町政の進展は？

町長／これまでの事業を継続

遠藤：町政の4年目、「漸進の年」とし、ふる里の歴史、伝統、文化を継承、医療福祉、教育の充実、地域経済の更なる発展を掲げています。

これまでの3年間でも取り組んできた事ですが、過去の取組と何が違うのか伺います。

町長：課題解決に向けた取り組みは中・長期的な時間でも要すことから、これまでの事業を継続させ確実に完成に導くことで未来を創っていきます。

廃炉・復興関係事業者や県内外の他市町村からの移住者を受け入れ、約6千人の新たな時代の防災に強い「安全・安心な共生のまちづくり」に取り組んでいきます。

職員離職

防止に取り組む考えは？

町長／職場環境整備に取り組む

遠藤：町長の町政期中、課長職の職員が定年を前に数名、離職されています。

知識や経験を持つ職員が離職することは、福祉施策の低下など町民に不利益を及ぼす問題と捉えています。町長の考えを伺います。

町長：行政経験が長く、多くの知見を有する課長職職員が定年前に退職することは町行政にとって損失であり、残念なことと捉えています。

遠藤：公務員離れが騒がれる昨今、職員の離職防止に取り組む重要性について考えを伺います。

町長：町長と職員との意見交換会、職員提案制度、人間ドッグ制度を導入しています。

さらに、人事異動に関する希望を異動に反映する取り組みを行っています。

働きやすい職場環境をつくることは、職員のモチベーション向上に繋がると捉えており、有給休暇・男性の育児休業の取得促進など、柔軟な働き方ができる職場環境整備に取り組んでいきます。

ICT機器

子どもの視力低下対策は？

教育長／保健だより等で呼びかけ

遠藤：文部科学省の学校保健統計調査で児童生徒の裸眼視力1.0未満の割合が過去最高を更新したと報告されていますが、ICT機器の利用による視力への影響について伺います。

教育長：保健だよりや掲示物に児童生徒の視力低下を予防するための特集を掲載し、児童生徒へ呼びかけています。

目の健康を守るための方法、屋外活動の推奨など、視力低下予防に資する取り組みを児童生徒に指導しています。

家庭でタブレット端末等を使用する際に、適切に休憩をとることや、睡眠時間をしっかりと確保するよう家庭と協力して指導してまいります。



えんどう ひろし
遠藤 浩 議員